

会 議 録

会議の名称	令和4年度 第1回川越市男女共同参画審議会
開催日時	令和4年7月27日(水) 午後2時30分～午後4時00分
開催場所	市役所 4A会議室
議長	会長 大橋 稔
出席者	(会長)大橋 稔 (委員)猪野晴代 門田裕子 山口日出美 小林弘幸 橋村祥子 瀬川由美子 高橋健治 村川はつ枝 坂詰靖子 荒木浩子 小林敦子 (12人) (市民部長)市ノ川千明
欠席者	(副会長)大森三起子 (委員)高橋巧 矢定夕有子 (3人)
傍聴人	1名
事務局職員 職・氏名	課長 石井みどり 副課長 溝口圭一 主査 山田篤 主任 藤澤翔太
会議次第	1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 部長挨拶 4. 議 題 (1) 各種審議会等における女性委員の登用状況について (2) 第六次川越市男女共同参画基本計画の進捗管理について (3) パートナースhip宣誓制度について(報告) (4) その他 5. 閉 会
配布資料	資料1-1 各種審議会等における女性委員の登用状況一覧表 資料1-2 川越市における女性管理職の割合一覧表 資料2-1 第六次川越市男女共同参画基本計画 推進状況報告書(案) 資料2-2 令和3年度 第2回川越市男女共同参画審議会での 意見 検討結果 資料3-1 パートナースhip宣誓制度の状況 資料3-2 パートナースhip宣誓制度の県内の状況 資料4 第1回川越市男女共同参画庁内会議(書面会議)で 出された意見

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<p>1. 開 会 傍聴希望者1名</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>3. 部長挨拶</p> <p>4. 議 題 (1) 各種審議会等における女性委員の登用状況について 資料1-1、資料1-2に基づいて説明</p>
委員	資料1-2は5年間の推移を確認できるが、資料1-1では過去の推移は見られないのか。
事務局	資料1-1は、1ページ目に前年度の数値を記載しているので、全体的な女性委員の数値を比較することができる。 しかし、2ページ目以降の個別の登用状況となると、資料1-1では確認できない。
委員	資料1-1では、(1) 法律・条例設置の附属機関を調査対象とし、それ以外は参考としているが、どのような理由によるのか。
事務局	第六次川越市男女共同参画基本計画で、(1)の数値を40%とすることを目標としているためである。他は計画に目標値を定めていないため、参考としている。
委員	計画では、各種審議会「等」と記載している。この「等」に(3) 規則・要綱等により設置された懇談会や(4) 庁内プロジェクト会議は含まれないのか。
事務局	附属機関は「審議会」という名称だけでなく、「協議会」や「委員会」等さまざまな名称があるため、各種審議会「等」としている。 ここでは(3)や(4)は含まれない。
委員	(3)や(4)についても、女性委員の登用状況について議論が必要になる。次期計画では見直してほしい。

委員	女性委員40%という数値目標は理解したが、委員全員が女性という審議会も性別による偏りがあると思う。男女がランダムに参画しているのが望ましい。
委員	資料1-1の2ページでは、各附属機関の女性割合と所管課が示されている一方で、14ページの女性委員の登用が40%に満たない理由は部局別にまとめられている。 市民目線からすると、部局別は分かりづらいのではないかと。 附属機関ごとに登用率が40%に満たない理由が分かるのがベストだが、少なくとも所管課ごとにまとめられないか。
事務局	資料1-1の集計方法については、今後検討したい。
	(2) 第六次川越市男女共同参画基本計画の進捗管理について 資料2-1、資料2-2に基づいて説明
委員	資料2-1の12ページで、【表の見方】の説明が①～⑥までであるが、もともとの表にも①とあって、重複して見づらいと思う。
事務局	当該箇所は、別の表記に修正したい。
委員	資料2-1の10ページにあるグラフの意味を知りたい。グラフが右肩下がりになっているが、これでよいのか。
会長	これはサンプルの数値である。このグラフでは令和3年度の数値しか示されていないが、1年毎にグラフが増えていき、5年後には基本目標ごとに5年分の数値を並べて比較できるようになる。
委員	資料2-1の6ページにある評価指標で、市男性職員の育児休業の取得率を、令和6年度までに15%以上にするのとある。計画策定時点で20%になっているが、これで正しいのか。
事務局	この評価指標の目標値にあっては、令和6年度までに「20%以上」が正しい。修正したい。
委員	目標値が20%以上としても、計画策定時点で同じ水準にある。目標値はもう少し高く設定しないのか。

会長	<p>子どもが生まれた男性職員のうち育児休業を取得した者の割合を指標としているが、対象となる男性職員が毎年出るとは限らない。 この点を考慮して、実現可能な数値を設定している。</p>
委員	<p>資料2-1の7ページにある事業の推進状況の評価方法について、「目標値がある事業は概ね90%以上」等とあるが、これは当該年度の数値なのか、令和7年度までの数値なのか。</p>
事務局	<p>個別事業では、当該年度の目標値と令和7年度までの目標値が混在している。総合評価の意だが、表現が分かりづらいので修正したい。</p>
委員	<p>(3) パートナースhip宣誓制度について 資料3-1、3-2に基づいて説明</p>
委員	<p>宣誓書受領証等の返還は、一方又は双方の意思でできるとあるが、一方の意思のみで返還できるとすると、勝手に返還されてトラブルにならないか。</p>
事務局	<p>パートナーシップの定義を踏まえると、一方が返還を望んだ時点でパートナーシップ関係は破綻していると捉えられるため、一方の意思でも返還を受け付けている。 なお、その場合には、他方当事者に文書でその旨を通知している。</p>
委員	<p>パートナーシップ宣誓制度を事実婚カップルにも広げてほしい。 性的少数者のため、という出発点は理解しているが、更に充実させるために、市民の意向も汲んでほしい。 事実婚カップルのようなジェンダーマイノリティにも配慮した、広い視点で制度を検討してほしい。</p>
委員	<p>誰かの権利を守ろうとして、誰かの尊厳が傷つけられることが無いようにしていく必要がある。 出発点は性的少数者だが、それを重視するあまり、他に傷つく人がいるならば、次の段階を常に考えてほしい。</p>
委員	<p>(4) その他</p> <p>男性の育児休業について、取得率だけでなく、取得した人数も知りたい。</p>

委員	<p>ヤングケアラーに関心がある。自分がそうだと声をあげられない人に、どうやって手を差し伸べるのかを考えている。</p> <p>いつか審議会の議題にしてもらいたい。</p>
委員	<p>第六次計画の事業の推進状況で、各事業の評価に対するコメントをする機会はあるのか。</p>
会長	<p>今後、推進状況報告書について審議会で議論することになる。</p>
委員	<p>市の女性管理職が増えていない現状を理解した。市として努力していると思うが、まだ足りないのが残念である。</p> <p>女性の社会進出が進んできたが、コロナ禍になって、やはり女性が弱い立場に置かれていることを痛感している。</p>
委員	<p>女性委員の登用促進について、女性が全くいない審議会を無くすことを目標に据えても良いと思う。</p>
委員	<p>メンバーが女性だけの会に属しているが、男性が入ってきたこともある。「母の会」、「女性の会」といった名称の是非についても議論がある。女性の登用について議論しなくても済むようになると良い。</p>
委員	<p>男女共同参画を推進するのに、教育の果たす役割が大きいことを実感した。子どもたちが男女の垣根を意識しなくて済むようにしたい。</p> <p>自治会長の女性割合が評価指標にあるが、女性の自治会長を増やすためにどのような働きかけをしているのか気になった。</p> <p>また、推進状況報告書の事業の評価方法については、目標値の概ね90%以上をAと評価するようだが、目標値を40%としている事業等はどうか整理していくのか検討が必要である。</p>
委員	<p>デートDVの予防啓発が課題だと考えている。デートDVの知識を普及させることで、将来のDV防止にもつながると思う。</p>
委員	<p>女性の登用を進めるのは難しいと、参議院選挙の結果を見て思った。ここでの議論を活かしてほしい。</p>
会長	<p>声を出せない人の声をどうやって拾っていくか。かつてはDVがそうだった。これから変えなくてはいけないことを、市の問題として拾う場にしていきたい。</p>

会長	<p>台風や大雨の季節になってきた。避難所で女性に対する暴力が生じないように、万全の対策がとれているか確認してほしい。</p> <p>4. 閉 会 次回は令和4年10月頃開催する予定</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
----	---